

設問 1

登録基幹技能者資格に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 登録基幹技能者は施工体制台帳に記載できる
- ロ 登録基幹技能者は経営事項審査において加点評価(3点)が実施される
- ハ 登録基幹技能者は監理技術者となることができる
- ニ 平成20年1月の建設業施行規則改正で、「登録基幹技能者」として位置付けられた

設問 2

登録基幹技能者に求められる資質として、誤っているものはどれか。

- イ 問題点を決断せずそのまま保留する
- ロ リーダーとして約束を守り信頼を得る
- ハ 強力なリーダーシップを発揮する
- ニ 理屈を並べる前にまず実行する

設問 3

「とらりよう」の役割の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 組織のまとめ役
- ② 「手作りの味」を生み出す最高の技能者
- ③ 他の組織(元請や他職)との調整役
- ④ 現場の経営責任者として生産性の向上を図る

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 4

登録基幹技能者制度の意義の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 国土交通省が「技能者」という言葉を認定した
- ② 国土交通省が単なる「名称独占」に終わらない制度として推進している
- ③ 技能者の最高位として業界全体が認知する共通の尺度ができた
- ④ 登録基幹技能者は建築のものづくりを支える人である

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 5

建設キャリアアップシステムに関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 最高位のレベル1が登録基幹技能者となっている
- ロ 能力の評価によって技能者の処遇改善を目指している
- ハ 現場管理の効率化も目論んでいる
- ニ 技能者をレベル分けするとともに、専門工事企業の施工能力等の見える化を目指している

設問 6

OJT教育の特質の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① OJTは上司の仕事そのものである
- ② 成長を促すため、部下のペースよりテンポを速くする
- ③ 外部との接触の機会を提供する
- ④ 失敗はつきものなので、仕事のペースが落ちるのはやむを得ない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 7

技能と技術に関する記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 技術とは、特定の人が習得した能力である
- ② 技能とは、多数の人により改善向上し受け継がれる
- ③ 優れた個人の技術を技能に置き換え発展させる
- ④ 技術と技能が協力することで、新しい装置や新しい技術を生み出す

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 8

5Sと作業環境の管理の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 5S活動は安全管理や品質向上を目的として推進される
- ② 5Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「信頼」の頭文字をとったものである
- ③ モノを探す時間の削減効果があり、生産性の向上が期待できる
- ④ 「整頓」は使用しないもの・いらぬものを捨てることである

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問 9

面談指導のポイントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ 報告を受ける時に指導する
- ロ ねぎらいの言葉や明日への期待の言葉をかける
- ハ 本人の悩み、問題点を聞き取る
- ニ 問題と原因の整理を行い、未達成の部分の責任追及を行う

設問10

コーチングの記述として、誤っているものはどれか。

- イ コーチングの効果を高めるためには、流れが重要である
- ロ コーチングには「質問」・「傾聴」・「直感」・「自己管理」・「確認」の五大スキルがある
- ハ コーチングによって、個人の潜在能力を引き出し成果に結びつける
- ニ コーチングで最も重要なことは、手本をやって見せて自信をつけさせることである

設問11

溶接形状欠陥の用語でないものはどれか。

- イ アンダーカット
- ロ オーバーラップ
- ハ 脚長不足
- ニ チョーキング

設問12

養生に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ サッシ取付け作業のため養生の一部を剥がした場合は必ず復旧する
- ロ コンクリート及びモルタルが製品に付着した場合は、速やかに汚れを除去する
- ハ アルミニウム合金製品に酸性物質が付着し、そのまま放置しても腐食することはない
- ニ 養生材は、現場シール及び付属部材取付けを考慮して貼り付ける

設問13

サッシを立て掛けて保管する場合、最も適切な角度は次のどれか。

- イ 85度
- ロ 75度
- ハ 65度
- ニ 55度

設問14

次のファスナーの必要な機能に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ カーテンウォールの自重、地震力、風圧力を躯体に伝えることができること
- ロ 躯体の層間変位及び垂直方向の変形に対し追従し、金属の温度変化による伸縮を拘束しない変形吸収ができること
- ハ 水密性・気密性を付与できる材料であること
- ニ 躯体誤差、製品誤差、取付誤差を吸収できること

設問15

次のサッシアンカーの固定に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ アンカーは建具に相応したもので、その間隔（ピッチ）は端部を押えて、中間部は550mm以下とする
- ロ 連結鉄筋の溶接は必ずアンカー部より取り、耐風圧強度のポイントとなる部分、障子又は扉重量の加わる部分は入念に溶接を行う
- ハ 溶接作業は溶接電流を適正にし、アークの長さを一定に保つ必要がある
- ニ 乾式工法で枠周りにモルタルを充填しない場合は、溶接スラグを完全に除去、溶接部に洩れなく防錆処理塗装を施す

設問16

建設業法の目的の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 建設業を営む者の保護
- ② 建設工事の請負契約の適正化
- ③ 建設工事の適正な施工の確保
- ④ 発注者の保護

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問17

建設業許可の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 建設業許可は29の専門工事業に区分されており、同時に複数の工種の許可を取得することができる
- ② A県が発注者である500万円以上の工事を請け負うためには、A県知事許可を得ておく必要がある
- ③ 一般建設業の許可業者は、2億円のカーテンウォール工事を下請負いすることができる
- ④ 建設業の許可は、国土交通大臣許可と都道府県知事許可ごとに、一般建設業と特定建設業に区分されている

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問18

建設業法上の施工技術の確保に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 主任技術者および監理技術者は、建設工事を適正に施工するため、建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理その他の技術上の管理、施工従事者の技術上の指導監督の職務を誠実に行わなければならない
- ロ 建設業者は元請であれ下請であれ、建設工事を施工するときには、すべての工事現場に監理技術者を配置しなければならない
- ハ 公共性のある施設・工作物または多数のものが利用する施設・工作物のうち、請負金額が3,500万円以上の下請工事については、主任技術者は工事現場ごとに専任でなければならない
- ニ 建設業許可を持たない業者は、主任技術者を配置しなくても良い

設問19

施工体制台帳の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 発注者に原本を提出し、工事現場では写しを閲覧できるようにする
- ロ 品質・工程・安全などの施工上のトラブルの発生を防止する
- ハ 不良不適格業者の参入や建設業法違反が無いことを証明する
- ニ 生産効率の低下につながる安易な重層下請を防止する

設問20

常時50人以上の労働者が混在作業する建設現場の安全衛生組織の役割で、元請が選任するものはどれか。

- イ 安全衛生責任者
- ロ 作業主任者
- ハ 統括安全衛生責任者
- ニ 総括安全衛生管理者

設問21

高所作業車に係る事業者の責務の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 高所作業車の作業主任者の資格を持つ者に、作業の指揮を行わせなければならない
- ② 道路上の走行の作業を除き、あらかじめ、当該作業に係る場所の状況、当該高所作業車の種類及び能力等に適応する作業計画を定め作業を行わなければならない
- ③ 転倒又は転落による労働者の危険を防止するための必要な措置を講じなければならない
- ④ 乗車席及び作業床以外の箇所に労働者を乗せる場合には、予め施工手順を周知しなければならない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問22

粉じん障害防止規則の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 屋内で行うアーク溶接作業は、特定粉じん作業に分類されている
- ② 屋外で行う手持式又は可搬式動力工具を用いて岩石又は鉋物を裁断し、彫り、又は仕上げる作業は、粉じん作業に分類されている
- ③ 粉じん作業者には粉じん作業特別教育が義務付けられている
- ④ 粉じん作業の管理責任はそれぞれの労働者に委ねられている

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問23

特別教育の対象となる、足場の組立て等の作業にあたる業務はどれか。

- イ 枠組み足場の建地にブラケットを用いて作業床を設置
- ロ 5メートル以上の高さのローリングタワーの解体
- ハ 5メートル以上の高さの枠組み足場の設置
- ニ 脚立、可搬式作業台の移動

設問24

建設工事の特徴に関する記述として、正しいものはどれか。

- イ 製造業の工場生産における製造管理を「施工管理」と呼ぶのに対し、建設工事における管理を「生産管理」と呼び区別している
- ロ 建設工事は、製造業のように同じものを見込み大量生産することができる
- ハ 建設工事は、製造業のように工場という一定の場所で生産することができない
- ニ 建設工事は、屋内工事が多く、天候、自然現象に左右されにくい

設問25

環境保全の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 一般に建設工事は土地の形状や形態を変えることが少ない
- ロ 周辺の自然環境、生活環境に与える影響は工事期間にのみならず建設物の完成後にも及ぶ
- ハ 地域住民との間にトラブルが発生しやすく、工程の遅れや工費の増大などを招く恐れがある
- ニ 労働安全衛生の観点から、労働環境についても適切な対策を講じなければならない

設問26

作業方法の改善の進め方の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 作業の流れにムリ・ムラ・ムダがあるとき
- ロ 作業の流れに停滞する箇所があるとき
- ハ 現場の作業方法に危険のおそれがないとき
- ニ 作業時間が短く、手直しが多いとき

設問27

施工要領書作成上の注意事項の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 一般的に常識的な事項についても記載する
- ロ 添付図面には納まり、寸法、材料名称、材質等を記載する
- ハ 施工方法は出来るだけ部分詳細図、図表等を主体とし、わかりやすい様に記載する
- ニ 施工要領書は原則として、工事種別ごとに作成する

設問28

適切な品質管理を行った結果、得られる効果の記述として、誤っているものはどれか。

- イ 良いものができる
- ロ 無駄がなくなる
- ハ 工期が長くなる
- ニ 原価が下がる

設問29

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

ハインリッヒの法則によれば、1件の（ ① ）が発生する背景には、29件の（ ② ）と300件の『ヒヤリ』や『ハット』した（ ③ ）に至らなかった事例があるとされている。

- | | ① | ② | ③ |
|---|-------|-------|-------|
| イ | 怪我や事故 | 軽微な事故 | 重大災害 |
| ロ | 軽微な事故 | 重大災害 | 怪我や事故 |
| ハ | 重大災害 | 軽微な事故 | 怪我や事故 |
| ニ | 重大災害 | 怪我や事故 | 軽微な事故 |

設問30

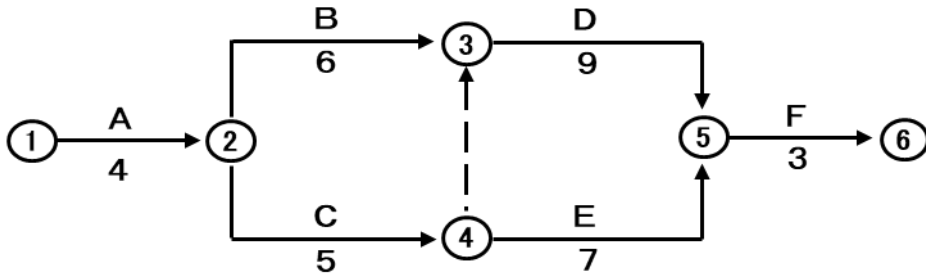
作業手順書に基づき実践した後の効果に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 作業の現状を把握するのに役立つ
- ロ 作業指示を適切に行うことができる
- ハ 作業のムリ・ムラ・ムダが省ける
- ニ 作業員の配置が難しくなる

設問3 1

下記に示す工程表の名称として、正しいものはどれか。

アルファベットは作業名を表し、アルファベットの下の数字は所要日数を表すものとする。



- イ バーチャート工程表
- ロ ガントチャート工程表
- ハ 斜線式工程表
- ニ ネットワーク工程表

設問3 2

クリティカルパスの記述として、正しいものはどれか。

- イ 作業開始から終了までの最長経路
- ロ 最も早く作業を開始できる時刻
- ハ 最も早く作業を終了する時刻
- ニ 作業の余裕時間

設問3 3

工程表を作成する上で、必要のないものはどれか。

- イ 作業主任者の選任
- ロ 施工順序の決定
- ハ 全体工程の把握
- ニ 主な作業の分類

設問3 4

工程管理に関する記述として、正しいものはどれか。

- イ 各工事の安全性は、考慮する必要がない
- ロ 工程計画を立てるにあたっては、季節や天候の影響を考慮する
- ハ 工事の能率は、作業員を集中して投入するほど上がる
- ニ 工事完成後、不可視部分となって確認できなくなるものについては、写真撮影を行って記録に残す必要はない

設問35

工程計画に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 工程管理とは、施工計画に基づいて最も合理的で経済的な工程を決定し、統制する機能をいう
- ロ 工事の原価は、工程のスムーズな流れとは関係が無い
- ハ 直接的な目的は、施工に必要な工期（日程）の確保である
- ニ 工事の品質は、工程の確保と密接に関連する

設問36

所要作業日数と作業可能日数に関する記述として、正しいものはどれか。

- イ 所要作業日数は、1日当たりの最大施工量を基準に算出する
- ロ 作業可能日数は、所要作業日数より少ない
- ハ 所要作業日数は、1日当たりの平均施工量を基準に算出する
- ニ 作業可能日数は、降水日数や積雪日数等の自然条件による影響を受けない

設問37

コンテナ輸送に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 反復利用による梱包費の削減
- ロ 保管時の安全性の確保
- ハ 製品混載搬入でもスムーズな受け入れ、取り出しが可能
- ニ 搬入、揚重、小運搬の効率化

設問38

資材管理に関連する分類について、誤っているものはどれか。

- イ 発注計画について → 事前調査
- ロ 資材手順について → 製作材及び一般材の発注手続き
- ハ 搬入計画について → 搬入工程表の作成
- ニ 搬入管理について → 盗難予防

設問39

次の搬入計画に関連する記述として、適切でないものはどれか。

- イ 取付精度の確認
- ロ 搬入経路の状況（幅、高さ、床の強度）
- ハ 搬入資材の大きさ、重量（輸送荷姿、積載制限）
- ニ 作業員の配置

設問40

次の搬入計画に関連する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 総合建設者と十分な打合せを行い、搬入計画を事前に作成する
- ロ 搬入計画は製品の取付工程を軸に現場の受入条件を加味し、搬入日時・搬入量・使用車種・荷卸し方法等細かく計画する
- ハ 搬入管理は事前に作成した計画に基づき、計画条件の変化などに気を配り適時、内容の調整・変更を行う
- ニ 計画を変更する場合は、迅速に総合建設者へ変更申請するものとし、他業種に対する調整や配慮は関知しない

設問41

次の受入検査に関する記述として、適切でないものはどれか。

- イ 搬入された資材に破損や変質等の異常がないか
- ロ 納品書の内容と搬入された資材の仕様の相違や数量の不足がないか
- ハ 本体資材に問題がなければ付属品については検査を省いてもよい
- ニ 購入依頼した内容と納品書等の内容が一致しているか

設問42

次の保管場所に関する記述として、適切でないものはどれか。

- イ 製品の出し入れに支障をきたさぬ広さが確保されていること
- ロ もっとも開口部に近い場所を確保すること
- ハ 保管中に他職の作業により移動のないことを検討しておく
- ニ 飛来、落下物等による製品損傷の恐れのないこと

設問43

文中の（ ）内に当てはまる語句として、適切なものはどれか。

企業にとって、原価を引き下げること「利益率」を高めるだけでなく、企業の（ ）を高めるためにも経営の重要な戦略である

- イ 競争力
- ロ 福利厚生
- ハ 成長力
- ニ 意識

設問44

建設契約関連図書の構成（一般的な建設契約に伴う関係図書）における見積用図書として、当てはまらないものはどれか。

- イ 見積要項書
- ロ 特記仕様書
- ハ 設計図
- ニ 維持保全計画書

設問45

工事中原価管理における記述として、誤っているものはどれか。

- イ 進捗率 \leq 投入率 の場合、予定人工を上回る可能性がある
- ロ 進捗率 \geq 投入率 の場合、その後の人工の削減ができる可能性がある
- ハ 進捗率 \leq 投入率 の場合、早急な対策が必要である
- ニ 進捗率 \geq 投入率 の場合、早急な対策が必要である

設問46

請負工事を成功させるための記述として、誤っているものはどれか。

- イ 見積原価の管理からスタートする
- ロ 施工計画を最優先した、事後原価を作成する
- ハ 予算内に収まるよう予算実績管理を行う
- ニ 実行予算を作成する

設問47

文中の（ ）内に当てはまる語句として、適切なものはどれか。

VEとは、「最低の（ ）で必要な機能を確実に達成するため、組織的に製品、またはサービスの機能の研究を行う方法」を言う。

- イ 環境破壊
- ロ 工事管理
- ハ 総コスト
- ニ 社会への貢献

設問48

工事契約に関連する資料として、必要でないものはどれか。

- イ 契約書
- ロ 作業員名簿
- ハ 仕様書（特記仕様書）
- ニ 見積書

設問49

次のうち、QC7つ道具と呼ばれているものはどれか。

- イ ヒストグラム
- ロ 建築図
- ハ サッシ図
- ニ 施工図

設問50

設計品質の決め方は、次の内どれか。

- イ 「技術規定」と「性能規定」
- ロ 「仕様規定」と「安全規定」
- ハ 「仕様規定」と「性能規定」
- ニ 「技術規定」と「安全規定」

設問51

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

「後工程は（ ）」「品質は工程で造り込む、検査では造れない」

- イ お客様
- ロ 真心
- ハ 工場
- ニ 技術重視

設問52

文中の（ ）内に当てはまる語句として、正しいものはどれか。

未熟練工や新規入場者に対しては、（ ）に基づいた、場当たりのでない指導や指示が求められる。

- イ 経験や勘
- ロ 契約書
- ハ 熟練された技術
- ニ 作業標準書

設問53

品質管理に関する記述として、誤っているものはどれか。

- イ 自主検査は最終工程で実施する
- ロ 取付け許容誤差内に入っていることを確認する
- ハ 不具合があった時に適切な指示をし、結果を確認する
- ニ 施工図、施工要領書に従って作業する

設問54

次のうち、品質マネジメントシステムのISO規格はどれか。

- イ ISO 9001
- ロ ISO 14001
- ハ ISO 22000
- ニ ISO 45001

設問55

墜落転落災害防止対策の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 足場の解体・組立て作業を行う時には、手すり先行工法の導入に努めるとよい
- ② 脚立の正しい使い方には、天板に乗らない、身を乗り出して作業をしない、脚立を背にして降りない、昇降時に手をあけておく、などがある
- ③ はしご上で作業をする時には、はしごの上端を60cm以上突出させ、足元が滑らないようにしてはしごを固定する
- ④ 高さが2m以上のところでの作業通路は、幅が30cm以上とし、かつ、床材のすき間が3cm以下、手すりは床面からの高さは85cm以上で、中さんと必要に応じて幅木を設ける

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問56

熱中症が疑われた時の応急対策の記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 休憩所のクーラーの前に、終業時まで一人で寝かせておいた
- ② 水を飲ませたら吐いてしまったので、スポーツドリンクに変更して飲ませた
- ③ 意識がはっきりしていたので、水の入ったペットボトルを自分で持たせて与えた
- ④ こむら返りを発症しているので、現場に準備していたAEDを使って治療を試みた

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問57

ヒューマンエラーの記述として、誤っているものはどれか。

- イ ヒトの危険意識が単調な反復作業や準備作業の時に低下して、労働災害につながることもある
- ロ 集団欠陥とは、元請から職長、職長から作業員への指示が正確に伝わらないコミュニケーションエラーのことである
- ハ 場面行動本能とは、ヒトの意識が瞬間的に一点に集中し、周囲が見えずに反射的に危険な行動をしてしまう本能のことである
- ニ パニックになると脳は正常に働かず、ミス連鎖を犯しやすくなる

設問58

作業員の遵守義務の記述①～④のうち、誤っているものはいくつあるか。

- ① 自分勝手な判断で、保護具を使用せずに作業をし、労働災害にあったときには、作業員の責任は重大である
- ② 現場では、常に安全な作業環境を保たなければならない
- ③ 法令で資格が必要と定められた作業については、有資格者が見本を見せてから作業を引き継がなければならない
- ④ 自分自身はもちろんのこと、仲間の安全を確保するため、さまざまな措置を講じなければならない

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問59

安全施工サイクルの記述①～④のうち、正しいものはいくつあるか。

- ① 現場の工事工程に対応した施工・安全衛生管理を組み込む
- ② 作業開始前の準備から作業終了後の片付け・清掃に至る毎日の一連の実施事項を定型化する
- ③ より安全で、良く、安く工事を完成させることを目的としている
- ④ 元請のサイクルとは別に、各専門工事業者の作業サイクルに最適な形で設定する

イ 0 ロ 1 ハ 2 ニ 3

設問60

リスクアセスメントの記述として、誤っているものはどれか。

- イ リスクはゼロにはならないので、残留リスク対策として個人が気をつけなければならない部分がある
- ロ リスクアセスメントの実施で、予防の安全管理、自主的な安全活動等ができるようになる
- ハ 優秀な職長が、経験に基づいて優先と思われるものからリスク低減対策を立て、対策を実施するとよい
- ニ リスクアセスメントを実施する時期は、機械・設備の設置時や変更時、作業手順などの作成時や変更時に行うとよい